

## SR-S716C2 V10.00 変更内容一覧

### □機能追加

No.	項目	内容
1	WEB設定機能	WEBでの装置設定、状態表示、メンテナンスなどの操作を行う機能を追加する。
2	マルチサブリカント機能	IEEE 802.1Xで1ポートあたりに複数のサブリカントを収容する機能(マルチサブリカント機能)を追加する。
3	収容サブリカント数拡張	IEEE 802.1X, MACアドレス認証, WEB認証での収容サブリカント数を24台に拡張する。
4	認証併用機能	IEEE 802.1X, MACアドレス認証, WEB認証を同一ポートで同時に使用可能とする。
5	SNMP Version3	SNMPバージョン3をサポート
6	MACアドレス収集機能	MACアドレス認証の導入時に端末のMACアドレスを収集する機能を追加
7	ゲストVLAN機能	認証失敗したユーザをゲスト用に用意されたVLANに割り当てる機能の追加
8	ARP認証機能	ARPパケットの送信元MACアドレスを元に認証し、認証失敗した端末の通信を阻害する機能
9	AAA登録ユーザ数拡大	AAAで登録可能なユーザ数を1000ユーザに拡大
10	接続端末数制限機能	1ポートあたりに接続可能な端末数を制限する機能の追加
11	DHCP機能拡張	DHCPサーバおよびDHCPリレーで設定済みのMACアドレスからの要求時のみアドレスを配布する機能を追加する。
12	LAバックアップ機能	ポートバックアップ機能をLAIに拡張
13	リンクダウンリレー機能	あるポートがリンクダウンしたときに関連するポートのリンクをダウンする機能
14	ether L3監視機能	指定されたポートを通して外部端末との疎通確認する機能

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V02.00～V03.01	運用中のASIC/PHYのリセットなど、ハードウェア異常時にelogが記録されないことがある。
2	V02.00～V03.01	複数のsshログインが延べ100万回以上競合するとメモリ資源枯渇が発生してシステムダウンする可能性がある。
3	V02.00～V03.01	RADIUS通信を行っている最中に動的定義反映でaaa radius service serverからoffといったRADIUSのソケットを閉じるような定義反映を行うと、メモリ破壊によるシステム異常が発生する可能性がある。
4	V02.00～V03.01	dot1x use onとdot1x eapol onを同時に設定したとき、全ポートが閉塞する。
5	V02.00～V03.01	複数指定不可なパラメタが複数指定可能となっていた。 例) "acl 0 ip any any any dscp 1,2,3"や"acl 0 ip any any any tos 1,2,3"
6	V02.00～V03.01	電源投入直後にコンソールでログインし、運用管理モードで改行キーを入力していると、構成定義モード時のプロンプトが表示されることがある。
7	V02.00～V03.01	IPv4 OSPFで、areaのdefcostの値が初期値以外でも、構成定義をallパラメタ付きで表示すると、初期値が表示される。
8	V02.00～V03.01	ASBRが動作しているOSPFエリアの種別を一般エリアからNSSAに動的定義変更すると、ABRが変換できないtype7 LSAを生成する可能性がある。
9	V02.00～V03.01	一般エリアで動作するASBRを、経路変動発生直後に一般エリアからNSSAエリアに動的定義変更すると、ABRが変換できないtype7 LSAが生成される可能性がある。
10	V02.00～V03.01	OSPF(Internal Area)経路のABRのインタフェース経路の経路がOSPF(External Area)経路情報と表示される場合がある。
11	V02.00～V03.01	ospf ip definfoの動的定義反映で、default経路のLSAが正しく生成、または削除されない場合がある。
12	V02.00～V03.01	show ip ospf routeにおいて、バックボーン以外でAS外部type1経路を表示すると、Area IDが常に、0.0.0.0と表示される。
13	V02.00～V03.01	show ip ospf protocolで表示される再配布情報に次のように誤って表示されることがある。 ・show ip ospf protocolにおいて、再配布情報がStaticと表示される。 # show ip ospf protocol  ospf(v2) daemon is running. Global statistics and variables: SPF schedule delay 5 secs, Hold time between next SPF 10 secs. Router ID: 192.168.100.1 This implementation conforms to RFC2328 RFC1583Compatibility flag is enabled AS boundary router. Redistributing external routes from, <b>Static</b> Area border router. <以下省略>  ・show ip ospf protocolにおいて、再配布情報がConnectedと表示される。 # show ip ospf protocol  ospf(v2) daemon is running. Global statistics and variables: SPF schedule delay 5 secs, Hold time between next SPF 10 secs. Router ID: 192.168.100.1 This implementation conforms to RFC2328 RFC1583Compatibility flag is enabled AS boundary router. Redistributing external routes from, <b>Connected</b> Area border router. <以下省略>
14	V02.00～V03.01	OSPFネットワークが複数エリアで構成された構成において、ASBRを含むエリアをNSSAに変更すると、ABRがtype7 LSAをtype5 LSAに変換しない場合と、ASBRのNSSA外部経路を誤計算する場合がある。
15	V03.00～V03.01	MACアドレス認証にて最大認証端末数を越える端末接続された環境で、送信元MACアドレスがマルチキャストになっているなどの不当なパケットを多数受信したとき時にシステムダウンが発生する可能性がある。(SR-S716C2, SR-S316C2, SR-S224PS1にて発生頻度高)
16	V02.00～V03.01	送信元MACアドレスがマルチキャストのパケットを誤って受信する。なお、スイッチ動作に影響はない。

17	V02.00～V03.01	<p>以下の場合に、Web認証ができなくなる。また、次の不当な文字列がコンソールに表示される。  “httpd: could not bind to port 80”  1)以下のコマンド+commitを繰り返すような文字列をカット&amp;ペーストでコンソールに貼り付ける。  webauth use  ether webauth use  ether webauth aaa  ether webauth mode  ether webauth authenticated-mac  ether webauth autologout  ether webauth vid</p>
18	V02.00～V03.01	ローカルデータベースによるIEEE802.1X認証を使用した環境で、認証中の端末リセットなどによる認証失敗が200回以上発生したとき、メモリ開放洩れにより装置がシステムダウンもしくは認証が常に失敗することがある。なお、本事象が発生したとき、「aaad: cannot process due to no resource [mac=<mac_addr>]」のシスログが表示されることがある。
19	V02.00～V03.01	認証ポート間でのポートムーヴにて認証端末が通信が通信できなくなる。
20	V02.00～V03.01	各種機能による閉塞とonlineコマンドの競合で、ポート閉塞しない場合がある。
21	V02.00～V03.01	SRS-V03混在のトライアングル構成でCISTとMSTIが異なるルートブリッジとなる構成時にCISTルートブリッジ装置のresetを契機に冗長なTopology ChangeやNew Rootが発生する場合がある。本件によって不要なログが出力されるが、ブリッジ動作には問題ない。
22	V02.00～V03.01	トライアングル構成でルートブリッジである装置ダウンが発生された後に、代表ポートから送信するBPDUにAgreement flagがついたままとされている場合がある
23	V03.00～V03.01	Web認証用VLANと認証成功時の割当VLANが同一の場合に認証失敗とならない場合がある
24	V02.00～V03.01	IPアドレスに0.0.0.0を指定したとき、定義内容が削除される仕様であるにもかかわらずエラーとして扱われ
25	V02.00～V03.01	バックアップポートの待機ポートがリンクアップしてスタンバイ状態のときにSTPを動的定義変更にて無効化した時、バックアップの待機ポートのSTP状態がFORWARDINGとなり、ループ状態になる場合がある
26	V03.00～V03.01	vlan igmpsnoop sourceコマンドで0.0.0.1やクラスDなどの不当なアドレスを設定してもエラーとならない。
27	V02.00～V03.01	装置起動時に構成定義矛盾のシスログを多数出力する場合、装置が起動中のままとする場合がある。
28	V02.00～V03.01	ipAddrEntryに属するMIBを採取した場合に、不正な値の報告またはシステムダウンとなる場合がある。
29	V02.00～V03.01	大量の宛先への自発パケットが短時間に発生した場合に、資源枯渇によりシステムハングまたはシステムダウンが発生する場合がある。